

日本初の公立劇場専属ダンスカンパニー「Noism」の活動総括

1 設立の経緯等

(1) 目的

- ・新潟において、質の高い新たな舞踊作品を創造し、全国・世界に向けて発信する。
- ・地方から大都市に向けての新たな舞台作品の創造・発信のネットワークを形成する。
- ・活動を通して、新潟における舞踊の普及・育成などを図り、市民文化の振興に貢献する。

(2) 沿革

- ・2004年（H16）4月にNoism設立《金森穰氏の舞踊部門芸術監督の就任条件》
- ・2009年（H21）9月に研修生カンパニーのNoism2設立
- ・設立当初より3年単位で活動期間を更新（第1次期間のみ3年と5か月）
- ・2019年（H31）4月現在、第5次期間〔2016.9～2019.8〕の最終年（15シーズン）
- ・これまでは活動期間の最後の1年が始まる前に次期の継続を決定し、市長同席のもと、記者発表を行ってきた。
- ・2019年（H31）3月1日にりゅーとぴあホームページにて1年間〔2019.9～2020.8〕の活動期間延長について公表を行った。
- ・2019年5月末現在、2020年8月以降の活動について未定

2 事業費等

(1) 事業費と財源の推移

(単位:千円)

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	
事業費	151,369	121,150	87,349	122,205	91,452	111,025	107,418	102,311	
財源内訳	入場料	36,698	32,266	-	-	17,727	15,723	9,364	6,248
	公演料	35,400	20,643	-	-	-	13,512	15,791	22,899
	助成金等	5,000	22,000	34,700	14,674	9,542	9,000	16,817	17,539
	協賛その他	5,233	12,569	17,020	50,957	14,519	19,583	12,110	3,535
	市補助金 (補助率)	69,038 (45.61%)	33,672 (27.79%)	35,629 (40.79%)	56,574 (46.29%)	49,664 (54.31%)	53,207 (47.92%)	53,336 (49.65%)	52,090 (50.91%)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H16～30合計	平均	
事業費	114,918	105,714	119,039	143,147	124,079	109,388	128,559	1,739,123	115,942	
財源内訳	入場料	10,539	19,675	14,671	12,697	20,842	16,242	18,939	231,631	17,818
	公演料	17,658	10,984	17,176	47,480	24,148	12,415	28,182	266,288	22,191
	助成金等	29,773	29,819	27,490	25,100	23,100	26,101	33,092	323,747	21,583
	協賛その他	4,273	3,696	6,334	4,366	3,468	3,277	4,661	165,601	11,040
	市補助金 (補助率)	52,675 (45.84%)	41,540 (39.29%)	53,368 (44.83%)	53,504 (37.38%)	52,521 (42.33%)	51,353 (46.95%)	43,685 (33.98%)	751,856 (43.23%)	50,124 (43.23%)

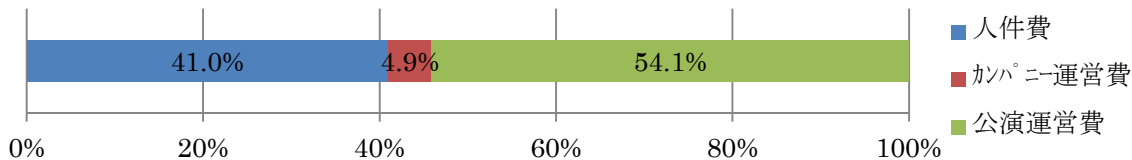
※H18、19の入場料及び公演料、H20の公演料は協賛その他に含む

(2) 事業費と財源の内訳 (2018 (H30) 年度)

総事業費：128,559 千円 市補助金：43,685 千円 補助率：34.0%

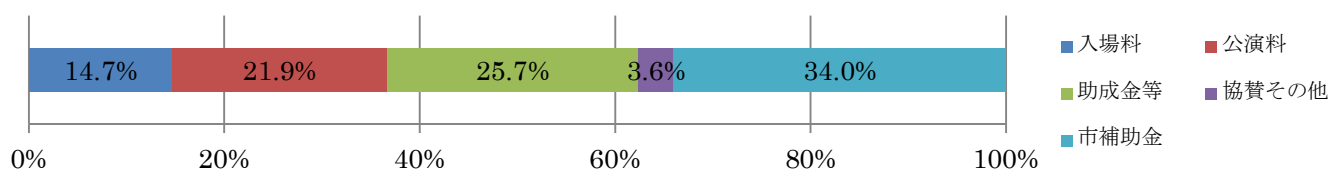
H30事業費内訳

人件費	カンパニー運営費	公演運営費	合計
52,710	6,345	69,504	128,559



H30財源内訳

入場料	公演料	助成金等	協賛その他	市補助金	合計
18,939	28,182	33,092	4,661	43,685	128,559



(3) 市補助金の考え方

りゅーとぴあが実施する文化事業に係る事業費から、チケット収入や国補助金などの自主財源を差し引き、なお不足する金額を対象に市が補助を行う。

3 これまでに得られた成果

(1) 定量的評価

①Noism メンバー

○ これまでに Noism に所属したメンバーの人数

区分		人数	備考
ダンサー	Noism1	59 名	芸術監督、副芸術監督、Noism2 リハ-ル監督、準メンバー含む
	Noism2	38 名	研修生含む
スタッフ		12 名	マネージャー1 名、広報1 名、舞台技術1 名、制作統括1 名
計		109 名	市外出身者 98 名、海外出身者 8 名、新潟市出身 3 名

※Noism2 から Noism1 (準メンバー含む) への昇格実績：15 名

Noism1 からスタッフへの転向：1 名

○ メンバーの活動期間

区分	最長	最短	平均	備考
Noism1	9 年	5 ヶ月	3.06 年	芸術監督(15)、副芸術監督(15)、Noism2 リハ-ル監督(10)を除く
Noism2	3 年	1 年	1.87 年	

○ 人材の輩出（Noism 退団者の活躍）

海外のカンパニーに所属	12 名
日本のカンパニーに所属	4 名
海外でフリーダンサーとして活動	5 名
日本でフリーダンサーとして活動	28 名
自身のカンパニーを設立	2 名
合 計	51 名

② 作品数（設立から 2019 年 3 月までの累計）

Noism1 ※	Noism2	Noism0	計
83 作品	42 作品	1 作品	126 作品

※Noism1・Noism2 合同上演含む

③ 公演数（設立から 2019 年 3 月までの累計）

（単位：件）

	公演				その他				合計
	市内公演	国内公演	海外公演	小計	イベント 学校訪問	ワークショップ	柳都会	小計	
Noism1	168	176	53	397	24	169	20	213	610
Noism2	61	7	-	68	38	-	-	38	106
Noism0	2	2	-	4	-	-	-	-	4
計	231	185	53	469	62	169	20	251	720

※その他に講演会や写真展などの活動も実施

○ 公演開催都市（新潟市を除く）

・ 国内 [22 都道府県 29 都市]

北海道、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、大阪府、兵庫県、鳥取県、山口県、高知県、福岡県、宮崎県

・ 海外 [11 ヶ国 21 都市]

アメリカ合衆国、イタリア、スペイン、大韓民国、中華人民共和国、チリ共和国、ブラジル連邦共和国、フランス共和国、ルーマニア、ロシア連邦、台湾

④観客数（2019.3 現在）

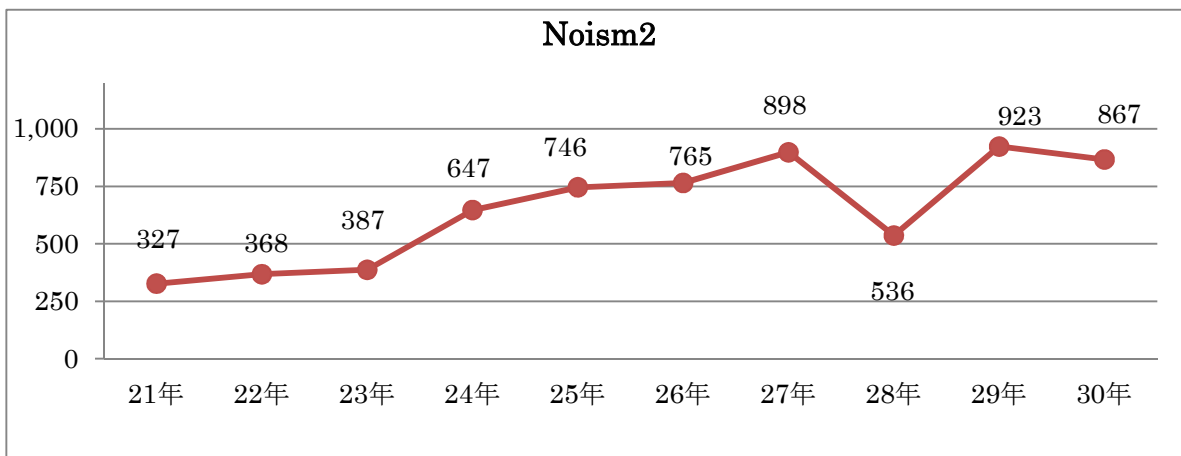
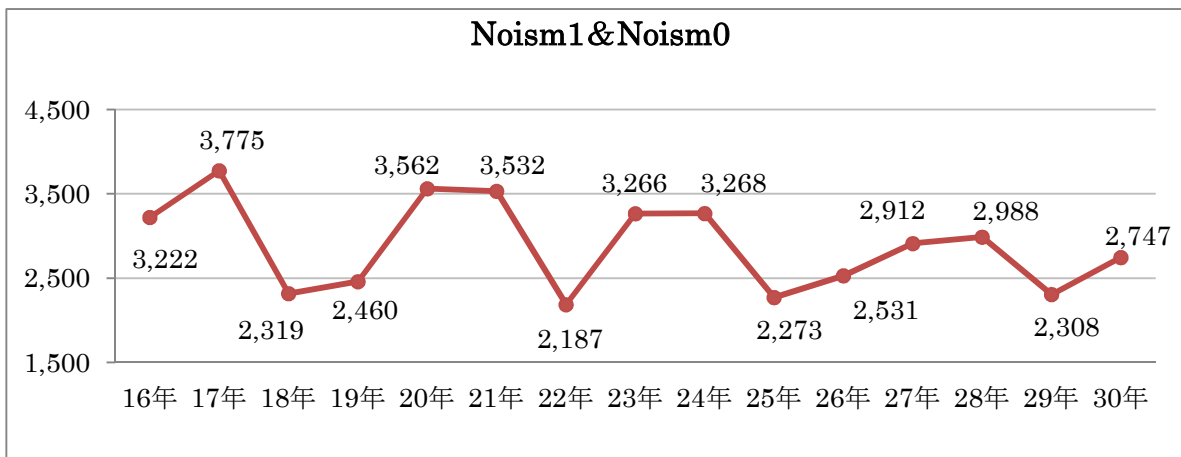
（単位：人）

	公演				その他				合計
	市内公演	国内公演	海外公演	小計	イベント 学校訪問	ワークショップ	柳都会	小計	
Noism1	42,275	69,941	29,433	141,649	30,935	4,015	2,170	37,120	178,769
Noism2	6,464	1,631	-	8,095	17,444	-	-	17,444	25,539
Noism0	1,075	746	-	1,821	-	-	-	-	1,821
計	49,814	72,318	29,433	151,565	48,379	4,015	2,170	54,564	206,129

※講演会や写真展などの観客(入場者)数は未集計

○入場者数の推移 [新潟公演]

（単位：人）



⑤市内公演における市外客の割合（アンケート結果）

市外、県外からの観客の割合は、過去の平均で31%であり、りゅーとぴあ劇場での公演を想定した場合、定員868人のうち271人が市外からの観客と推定できる。

年度	公演名	公演日	回収数	市外観客割合		劇場1公演あたり市外観客数(推定)	
				市内	市外	市内	市外
24	『Nameless Voice～水の庭、砂の家』	2012/6/29～7/1ほか	64件	61%	39%	529人	339人
	『Solo for 2』「中国の不思議な役人」	2012/12/20～21	283件	79%	21%	687人	181人
	『Noism2春の定期公演2013』	2013/2/22～24	40件	68%	33%	586人	282人
	『Noism1メンバー振付公演』	2013/3/29～31	61件	74%	26%	640人	228人
	計		448件	70%	30%		
25	『ZAZA～祈りと欲望の間に』	2013/5/24～26	93件	65%	35%	560人	308人
	Noism2『鳩の反動』	2013/7/13～14	27件	74%	26%	643人	225人
	Noism1『PLAY 2 PLAYー干渉する次元』	2013/12/20～22	140件	58%	42%	502人	366人
	Noism2春の定期公演2014	2014/3/7～9	46件	74%	26%	642人	226人
	計		306件	68%	32%		
26	劇的舞踊『カルメン』	2014/6/6～8	126件	63%	37%	544人	324人
	Noism2夏の特別公演『RAFT』	2014/7/18～20	5件	60%	40%	521人	347人
	Noism1『ASU-不可視への献身』	2014/12/19～21	95件	67%	33%	585人	283人
	Noism2春の定期公演2015	2015/2/20～22	51件	67%	33%	579人	289人
	計		277件	64%	36%		
27	Noism1近代童話劇シリーズvol.1『箱入り娘』	2015/6/6～7ほか	89件	76%	24%	663人	205人
	Noism2定期公演	2015/12/11～13	19件	74%	26%	640人	228人
	劇的舞踊『カルメン』	2016/2/19～21	67件	69%	31%	596人	272人
	計		175件	73%	27%		
28	劇的舞踊『ラ・バヤデーラー-幻の国』	2016/6/17～19	124件	65%	35%	567人	301人
	Noism2定期公演	2016/12/16～18	54件	72%	28%	627人	241人
	Noism1『マッチ売りの話』+『passacaglia』	2017/1/20～22	81件	69%	31%	600人	268人
	計		259件	69%	31%		
29	Noism1『Liebestod』『Painted Desert』	2017/5/26～28	74件	74%	26%	645人	223人
	Noism2特別公演2017	2017/6/23～25	27件	56%	44%	482人	386人
	Noism1『NINA-物質化する生け贄』	2017/12/15～17	152件	70%	30%	605人	263人
	Noism2定期公演	2018/1/26～28	30件	60%	40%	521人	347人
	計		283件	65%	35%		
30	劇的舞踊『ROMEO & JULIETS』	2018/7/6～8	178件	79%	21%	683人	180人
	Noism2特別公演『ゾーン』	2018/7/28～29	58件	74%	26%	644人	224人
	実験舞踊『R.O.OM』/『鏡の中の鏡』	2019/1～2	191件	63%	35%	545人	300人
	Noism2定期公演	2019/3/15～17	72件	69%	29%	603人	253人
	計		499件	71%	28%		
24年～30年の平均割合			-	69%	31%	600人	271人
劇場座席数			868席				

## ⑥ファンクラブの会員数の推移

年度	会員数	備考
平成16年	22名	
平成17年	70名	
平成18年	211名	会費1,000円でスタート
平成19年	257名	
平成20年	345名	
平成21年	231名	会費を2,000円とする。
平成22年	203名	
平成23年	約190名	
平成24年	約190名	
平成25年	約190名	
平成26年	約190名	設立10周年
平成27年	約190名	
平成28年	約190名	
平成29年	約190名	
平成30年	約190名	

※Noismサポーターズ unofficial 事務局への聞き取りによる。

## ⑦団体協賛及び個人協賛の実績

### 寄附金

年度	法人等の団体			個人		合計	備考
	金額	物品・サービス提供 (金額換算)※1	件数	金額	件数		
平成22年	900,000	390,000	3	220,000	6	1,510,000	
平成23年	1,200,000	91,000	4	460,000	24	1,751,000	
平成24年	1,500,000	0	4	510,000	28	2,010,000	
平成25年	1,500,000	0	5	580,000	36	2,080,000	
平成26年	2,400,000	0	7	1,050,000	46	3,450,000	
平成27年	2,400,000	0	7	940,000	45	3,340,000	
平成28年	2,100,000	0	6	810,000	44	2,910,000	
平成29年	1,800,000	600,000	7	980,000	47	3,380,000	
平成30年	300,000	0	1	378,350	21	678,350	

※1 法人【物品・サービス提供】シューズ等の現物提供については、価格を換算して計上。

### 協賛金

年度	法人等の団体			個人		合計	備考
	金額	物品・サービス提供 (金額換算)	件数	金額	件数		
平成30年	1,133,334	0	6	1,246,701	96	2,380,035	※2

※2 Noismの活動期間が8月～9月と年度をまたぐため、活動期間に応じて按分のうえ当該年度の収入。

※3 平成30年度に「寄付金」について制度の見直しを行い、対価性のある『協賛金』と対価性の無い『寄附金』に整理を行った

## ⑧経済波及効果

平成30年度新規需要額（事業費総額）：129百万円

経済波及効果額※：219百万円〔対個人サービス部門〕

※総務省ホームページ掲載の「平成23年産業連関表による経済波及効果 簡単計算ツール」により算出

## (2) 定性的評価

### ①新潟市及び「りゅーとぴあ」の国内外でのプレゼンスの向上

- ・国内唯一の劇場専属舞踊団
- ・2004年 Noism が『第8回朝日舞台芸術賞舞踊賞』を受賞
- ・世界的なダンサー、振付家である金森穰氏の知名度、指導力などが評価される
- ・2007年 金森穰氏が『芸術選奨文部科学大臣賞』を受賞（他多数の受賞歴あり）
- ・2018年 井関佐和子氏が『第38回ニムラ舞踊賞』を受賞
- ・2018年 金森穰氏が『第60回毎日芸術賞』を受賞
- ・全国で16館のみが対象となっている文化庁補助金「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」を15年連続で受給している大きな要因

### ②創造都市としての発展

- ・2012年度文化芸術創造都市部門文化庁長官表彰 受賞【新潟市】に寄与

### ③シビックプライドの醸成

- ・柳都会や公演終了後のアフタートークによる鑑賞者との交流拡大
- ・高校ダンス部の活躍など地域の文化活動の活性化に寄与

### ④教育などの他分野や地域との連携

- ・中学校出前公演を実施（新潟市事業）
- ・ワークショップなどを実施

## 3. 課題

- (1) 対外的な発信力は今後も向上するのか
- (2) Noism 以外の質の高い舞踊作品の鑑賞機会が少ない
- (3) 市民の認知度及び理解度は十分か
- (4) Noism に続くレジデンシャルカンパニーが国内に誕生していない
- (5) 日本舞踊や洋舞踊、ヒップホップ、ジャズダンスなど他の舞踊への支援との平等性、公平性の確保
- (6) ガバナンスの欠如
- (7) Noism スタッフの労働環境の改善（時間外労働の縮減等）
- (8) 市補助金の確保  
(ダンサー等の人件費は全額を市補助金で対応。他カンパニー運営費にも市補助金を充当)

#### 4. Noism に求められる姿と活動

求められる姿		取組むべき活動
市民・地域への貢献	市民の認知度が上がり、活動への理解が深まっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集客力の向上</li> <li>・ 新規来場者の増加</li> <li>・ 次代の観客育成（学生鑑賞者の増加）</li> <li>・ ファンクラブ会員の増加</li> <li>・ アウトリーチ活動やワークショップの充実</li> <li>・ 地域や他分野との連携（劇場以外での公演等）の充実</li> <li>・ 広報活動を充実し、これまでの活動や実績を含め発信</li> </ul>
	多くの市民が Noism の存在を誇りに思っている	
	活動が市民に還元され、創造的な影響を与えている	
国内外への発信	国内外の劇場間でネットワークが広がっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリジナル作品の創造と発信</li> <li>・ 全国のホール等との連携強化</li> <li>・ 公演の購買者（劇場）の増加</li> <li>・ 海外公演の充実</li> </ul>
	新潟市とりゅーとぴあのプレゼンスが高まっている	
活動・運営	活動の自立性が高まっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コスト意識の向上（舞台制作費の一層の経費削減）</li> <li>・ 協賛・寄付制度の充実と活用</li> <li>・ チケット売上の増加に向けた広報活動の充実など</li> <li>・ 活動指標（アウトプット）、成果指標（アウトカム）を設定し、活動の客観的な評価方法を確立</li> <li>・ PDCA サイクルを実践</li> <li>・ 運営体制を見直し、Noism・りゅーとぴあ・市の3者の信頼関係を再構築</li> </ul>
	市と財団、Noism の間で同じ目標に向かってそれぞれが役割を担っている。	

#### 5 今後の活動方針（案）

2019年8月末をもって第5次期間が終了となるが、2019年9月から2020年8月までの1年間活動を延長することとした。

活動延長にあたっては、Noism、りゅーとぴあ、市の3者がNoismに求められる姿と取り組むべき活動についての考えを共有し、解決に向けて具体的に取り組んでいく。

なお、2020年以降の活動継続については、これまでの活動実績、課題への取り組み状況を踏まえ、第5次期間終了（2019年8月）までに判断する。